



長野市公文書館便り

●発行日：平成28年(2016)1月20日 ●発行：長野市公文書館



【移管・整理】

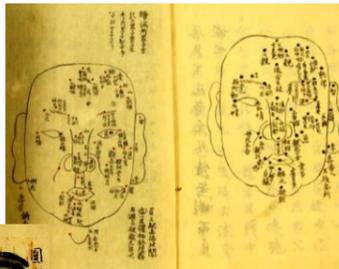
12月9日～11日 大岡村役場文書の整理を開始しました。約1,000点もの資料を、当館職員が2日間にわたり年月日順に並べ替える作業を行いました。公開は2月初旬を予定しています。



資料の並べ替え作業

【公開資料(11月～12月)】

- 野池家文書 (111点)
- 風間芳男文書 (5点)
- 塚田美寿男文書 (1点)
- 凶書 (30点)



「人相傳 一卷～二五巻」
明治17年(野池家文書)

「人相普沼流 野池嘉助」
明治17年(野池家文書)



【新聞連載】

公文書館では長野市民新聞紙上で「公文書館資料が語る 戦後70年」と題し、当館所蔵資料をもとに写真や解説を隔週の土曜日に連載しています。ご覧ください。すでに14回の掲載となりました。

長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)
 電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051
 HP <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>
 又は **長野市公文書館** で検索
 E-mail shomu-9@city.nagano.lg.jp
 開館時間 午前9時～午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)
 休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日
 年末年始(12月29日～1月3日)

【館内施設】

12月3日 年々増加する資料に対応するため、1階東書庫に書架を増設しました。この書架は旧市役所第一庁舎で使用していたもので、庁舎の移築に伴い再利用しました。当館の書架はこれで321m延長となり、配架できる長さは合計1,500mとなりました。



東書庫に設置された書架



パネル展のお知らせ

善光寺下、東町の門前商家ちよっ蔵おいらい館で「戦後70年 15年戦争下の長野市民」と題して、パネル展を開催します。お越しください。

- 会場：門前商家ちよっ蔵おいらい館内「市民ギャラリー」
- 日時：平成28年2月2日(火)～14日(日) 午前9:00～午後5:00 (8日休館)

『市誌研究ながの』23号3月発行予定!!



今号は真田家の歴史についての講演会の収録や、曹洞宗長野尼僧学林、戸隠神社宝光社の建築彫刻、浅川と用水の歴史等の論文・研究レポートを掲載しています。ご希望の方は当館までお問い合わせください。

- ◆判型：A4版 約150頁
- ◆定価：1,400円(税込)

こんなときにはご相談ください。

- ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

新収蔵資料『労務報国会関係綴』(大岡村役場)より

「東部軍マ(10.4)工事勤労報国会受入要綱」

大岡村役場文書(現長野市大岡)の『労務報国会関係綴』の中の「東部軍マ(10.4)工事勤労報国会受入要綱」について紹介します。

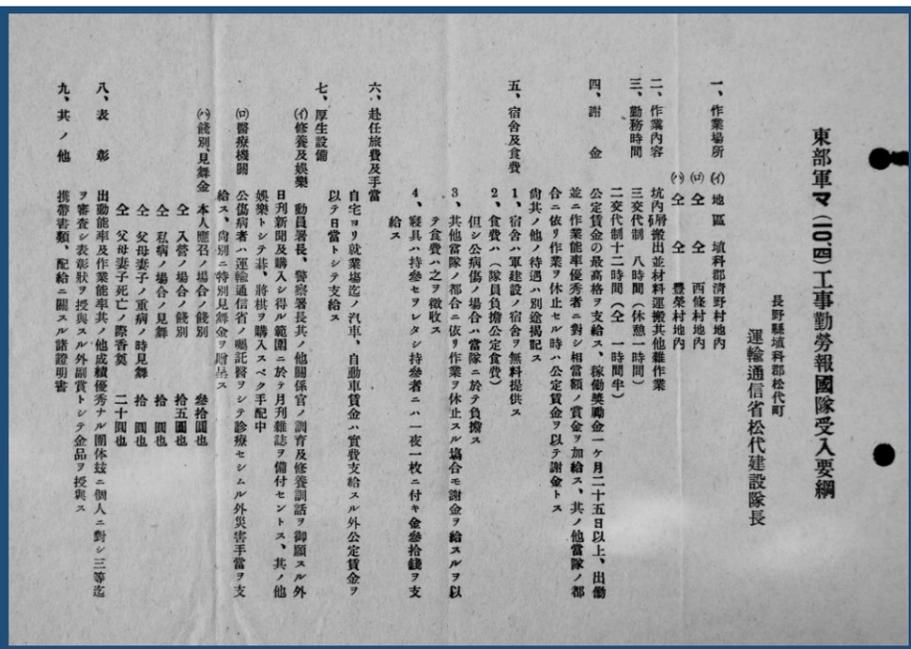
この史料は、太平洋戦争末期に本土決戦に備えて現長野市松代町に建設を開始した「大本営地下壕」への勤労報国会動員の要綱で、運輸通信省松代建設隊長名で出されています。簿冊には、昭和19年(1944)12月21日午前11時から松代町の公会堂で開かれた「東部軍マ(10.4)工事勤労報国会出動二関スル協議会」の開催通知をはじめとして、動員割当数や大岡村の報国会員名簿など地下壕建設の勤労働員に関わる一連の文書が綴られています。

これまで、長野市や合併した市町村役場の文書に大本営地下壕建設に関わる勤労働員の史料は見いだせませんでした。ある程度まとまって大岡村役場文書に残されていました。軍関係の史料は、大本営地下壕建設に限らず極秘裏に進められることが多く、また、

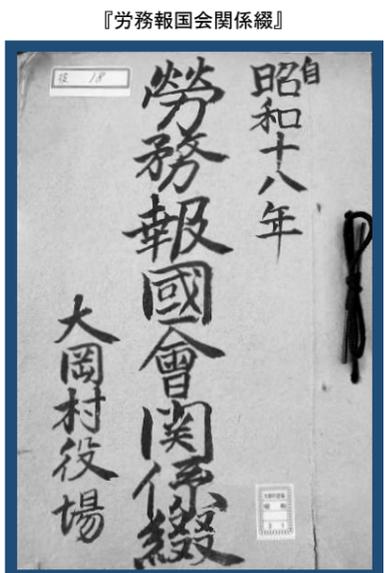
終戦直後に、占領軍にわたらないよう大量に処分されましたので、目にすることが難しいのが実情です。

勤労報国会受入要綱には、作業場所が清野村・西条村・豊栄村とありますが、松代大本営に関する研究によって清野村では象山地下壕(政府機関)、西条村では舞鶴山地下壕(天皇御座所・大本営〈現気象庁松代地震観測所〉)、豊栄村では皆神山地下壕(倉庫)が建設されていたことが明らかになっています。動員された市町村民の主な作業は、掘り出された石くずの搬出や材料運搬、雑作業で、掘削作業は入っていません。勤務は8時間3交代(休息1時間)と12時間2交代(休息1時間半)、報酬は公定賃金の最高クラスで、働きに応じた手当も出たようです。

12月31日には「緊迫する戦況に即応」するため、各町村の動員割当数が決められました。大岡村は1月10日からの第1次動員に2人、1月19日からの第2次動員に6人、1月29日からの第3次以降4月5日からの第10次まで各5人、4月15日からの第11次動員に4人の割り当てで、移動日を含め20日間の動員が求められました。大岡村では、大政翼賛のスローガンのもと勤労報国会を組織して、村内の水田耕作・田植え・除草・稲収穫、養蚕、果樹の袋かけ・収穫・出荷など様々な作業を協力的に進めてきていましたが、さらに各地区に対して勤労報国会員の選考を求め、1月4日には早くも2人の村民に動員令書を送って動員に着手しています。



『東部軍マ(10.4)工事勤労報国会受入要綱』



『労務報国会関係綴』

小藩須坂を支えた「綿内三千石」の蔵屋敷

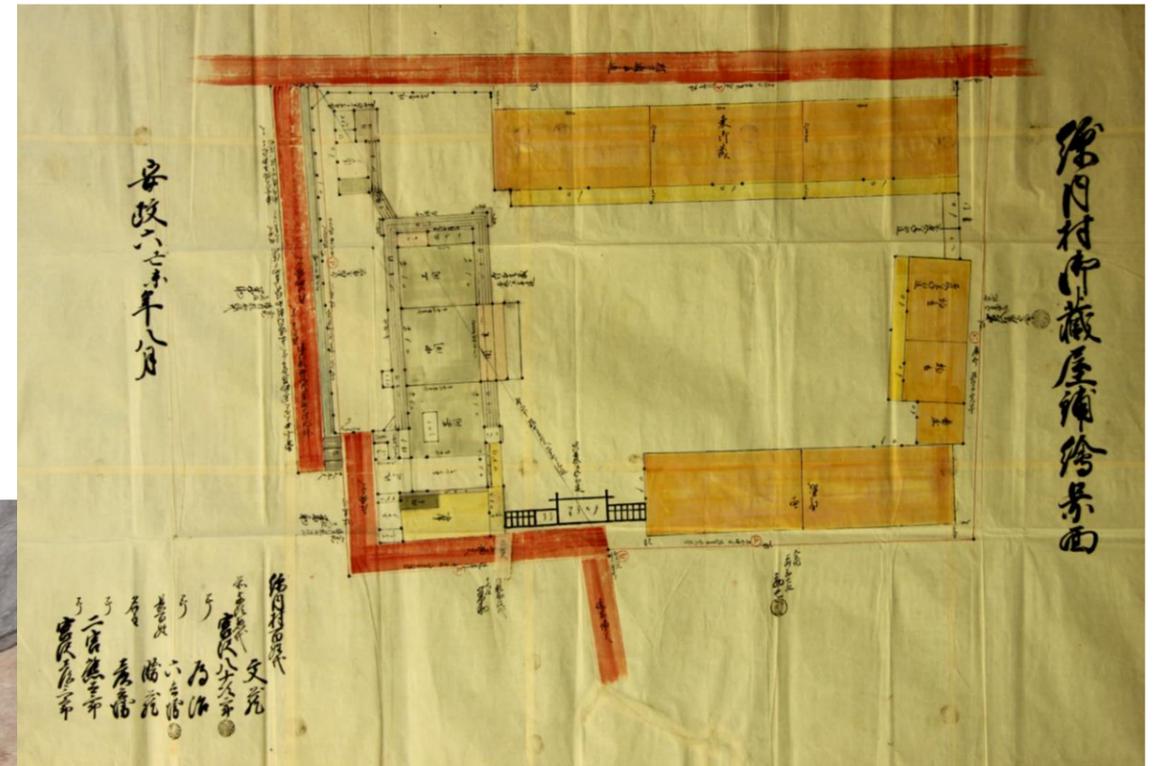
綿内村絵図 × 綿内村御蔵屋敷絵図面

綿内村は近世を通じて須坂藩に属し、石高三千石の大村でした。明治22年(1889)町村制施行の際も他村と合併せず、昭和34年(1959)川田村・保科村と合併して若穂町となりました。町の期間は短く、同41年長野市へ合併して現在に至っています。



「綿内村絵図」(部分)

作成年次は不詳ですが、絵の内容や右上の蔵屋敷絵図面から安政6年(1859)以降に描かれたものと推定されます。全体の構図は西から東をのぞんだ鳥瞰図で、着色された寺社・民家・集落などが丁寧に描き込まれ、江戸時代の村に遺された絵図としては貴重です。掲載したのは絵図の一部分で、北国往還(松代街道)の両側に家々が建ち並んだ綿内村の中心部です。中でも正満寺と正明寺(称名寺)に挟まれて、大きく構えた御蔵屋敷の建物が目を引きます。1万2千石余の小藩須坂の屋台骨を支えた「綿内三千石」の年貢米を積込んだ蔵屋敷でした。



「綿内村御蔵屋敷絵図面」 安政6年(1859)8月作成

村役人8人の署名がある「綿内村御蔵屋敷絵図面」です。図面左が北、右が南で、東西約28間、南北約36間の敷地に御勘定蔵(上間・中間・茶間)、西ノ御蔵、東御蔵などの主要建造物が建てられています。御勘定蔵には「安政六未年建」、南側の物置・裏門には「安政六未年初造」との書き込みがあります。左絵図と絵図面は一致しない部分もみられます。下の石碑裏面の説明には、敷地東西29間、南北42間とあり、絵図面より南北が6間ほど長く、絵図には道の南側にも建物が描き込まれていて、安政6年以降に建て増しがあったと考えられます。



「綿内村御蔵・役場・農協之跡」碑

明治25年(1892)御蔵屋敷の敷地内に綿内村役場が置かれました。昭和17年(1942)役場の移転にともない、綿内村農業会が事務所を開設し、23年には綿内村農業協同組合となりました。江戸時代から幾多の歴史を刻んできたこの地を記念して、平成24年2月「綿内村御蔵・役場・農協之跡」碑が建てられました。